

# 内郷村報

天法人則  
ニ從順ナ  
ルベシ

## 内郷村報の 六大使命

一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。  
二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を圖り、經濟和議努力の實現を期す。  
三、本村共済事業の徹底を期す。

精神文化研究所に於て、三日間つゝ、鍊成修養會の講習をうけた。予は、大正十四年から、數ヶ年にわたり、先生より「感想」を稱する小冊子の寄贈を受け、其所謂先生の感想に、將た其文章に、傾

二、大精神文化研究所  
其所在地は、附近一帯の平野を眼下に展望する、横濱市港北區太尾町大倉山(海拔百五十尺)であつて、約一万坪の敷地、林間に散在する、本館及之に屬する、數

## 帝國議會と

### 海外同胞激勵會

#### 滯京一週間記録

#### 大内民恵

#### 一、緒言

回顧すれば、十年前昭和七年六月三日、予は、當時政黨の信頼失墜の結果、所謂舉國一致内閣といふ、鎔をうつて出現した、齋藤内閣によつて、召集せられた、帝國議會を傍聴し、其所見を、「帝國議會の一瞥、議員の動物的奇聲」の一文にまとめ、之を同月二十日發行の本紙に掲載して、大に國民教育の透徹を、期せざるべからざることを、一般に懇へたのであつた。

今や時局は、肇國以來、未曾有の危機を展開、國家興廢の關頭に當面したる、此時此際、我臨時帝國議會や、果して如何？關心憂慮こゝに之が傍聴を思ひ立ち、開期前二日、十四日に上京したのであつた。又其開期中、海外同胞激勵會、同中央會等々にも、出席すること共に、此時局下に於ける、帝都の雰囲気を感じたのである。これがその「滯京一週間の記録」である。

#### 二、帝國議會

臨時帝國議會が、如何に開院せられ、如何に進行せられ、而して如何に閉院せられたかは、各新聞に將た官報に、其委曲が盡されてあるから、予は改めて之を語りぬことを、した。予は、開期中傍聴席から、議場を眼下に睥睨し四百有餘議員の行動を、親しく検討した結果、それより得た感想の一端を、披瀝することにする。

所謂、既成政黨が、天下の信頼を失墜し、如何にして、其存在を國民に知らしめ、如何にして、各自の地位を保たうかき、煩悶懊惱して居つた時に、恰も「一徹一心」といふ、一大國策が顯現したので、この時とばかりに、各自の屬する政黨を解消して、それに順應すること、なつたのであるが、由來教養に乏しい面々の、この「我執」は、おそれ、なかく、其「我執」は、釋然一掃することが出来ない。

四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。  
五、本村出身香及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。  
六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

一、朝食 七時三十分  
二、所長講話 九時一十分  
三、作業訓練 十時一十分  
四、書畫訓練 十一時一十分  
五、休息 十二時  
六、作業訓練 一時三十分

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社誌は予に對する遺言を兼ねるものなり

追憶し、感慨無量！故博士をして今日あらしめば、轉た恨恨の情にうたれたことであつた。  
四、其收獲  
神前、會式に於て、杉坂先生

之を要するに、刻下の國狀に鑑み、「自由經濟」を解消して「統制經濟」を探つた様に、予の所謂「自由選舉」を解消して「統制選舉」を探り、選舉の自由を束縛するが如き弊に陥ることは、斷じて許すべきではないが、從來のやうに、金力、権力、情實、暗取引等々、嚴密にいへば、殆んど凡て自由放恣な選舉を全廢して、官民共に大に振奮、之を一大統制的な選舉方法を立案し、眞に民意を代表する、人間的、紳士的、將た日本國民の人材を選出して、國策遂行に精進すべきである、痛切に考へさせられるのである。

三、海外同胞激勵會  
昨年十一月、海外二十七ヶ國に在留する、同胞二百五十萬人の代表千五百人を以て、紀元二千六百年奉祝大會を、東京に開催。其協議の結果、之を契機として、海外各國在留同胞の組織する、各種團體の、中央機關として、海外同胞の福祉増進、母國との連絡、及在住國民との親善を圖るといふ、目的の下に「海外同胞中央會」を組織し、會長には、白鳥敏夫氏、名譽顧問には、東郷茂徳、谷正之助氏、常任顧問として山岡萬之助博士等が其中樞となり、鈴木美道中將が理事長として、會務一切を執掌するといふ、頗る強力な陣立であつて、予は本縣海外協會常務理事として、之に参加して居るのである。

其「海外同胞中央會」が主催となつて、外務省、拓務省、情報局大政翼賛會、東京市等の後援の下に、同十八日午後一時から日比谷公會堂に、開催されたのが海外同胞激勵大會なのである。

入場者三千、満場餘席なき盛況。田原今村兩氏が、之を司會し、先づ國民禮儀、新理事長濱田中將の開會の辭、常任顧問山岡博士の挨拶があつて、東條首相、東郷外相大久保市長、大政翼賛會副總裁安藤中將等諸氏が、夫々の立場から熱烈なる激勵の辭を贈り、一同をして感激措け能はざらされた。予は議會の第一日より、親しく東條首相の威容を、其眞摯なる憂國の至情とに、接することを得たことに對しては、心から満足したことであつた。

次に「現地報國」に入り、  
一、飽くなき敵性  
二、山田秀藏  
三、第三國の斃手  
四、樂園ベルギーに及ぶ  
五、件被害者代表 福田英次郎  
六、自己の影に對する  
七、シムガホール  
八、南洋日日新聞  
九、南洋日日新聞  
十、南洋日日新聞  
主 筆 野村貞吉  
主 筆 佐藤清太郎  
五、激動するアメリカ  
六、サンプローカ  
七、海老名一廣  
八、教授・文學博士  
九、東京日々新聞  
十、石橋恒喜  
南洋 編輯 以上夫々其現地に於いて、其概要の報告があつた。

本紙定價 一圓五毫 一年前號 四圓八毫 發行所 内郷村報社 編輯所 内郷村報社 印刷所 平活版所

實に驚嘆に堪へざる感にうたれたのである。それらに就いては、他日紙面に改めて語ることにする。終りに、大倉先生を始め、杉坂岡崎兩師並に關係各位に對して、深甚の敬意を表して擲筆する。

CのぞいたA、B、D線の状況、及其線内に於ける、同胞の状況を知らぬことを得て、奮然として心強く思はれたことであつた。

次いで、小野崎一郎氏の、ピアノ伴奏で、藤原義江氏、高藤愛子嬢の、数番の獨唱(何れも贊助出演)があり、海外關係藝術家として、崔承喜、大辻可郎、上山草人等諸氏から、感謝激勵の言葉があつて、盛會裡に萬歳を三唱して閉會せられたのであつた。

#### 四、鈴木中將壯行會

これは前記「海外同胞中央會」の、創立以來理事長として、功勞多大であつた、鈴木陸軍中將が、此度其筋の推薦により、在北京新民會副會長として、赴任することとなつたので、十九日午後六時から、丸の内會館に開かれた會であつて、會するもの、各界の代表的人士を網羅した、出席者六十餘名の賑ひで、洋式の晩餐後、新理事長濱田海軍中將の挨拶に始まり、大川周明、山岡萬之助、田原春次、中村嘉壽、平塚廣義等諸名士から夫々傾聴に値する、壯行の辭があつて、之亦盛會裡に、萬歳を三唱して、午後九時過ぎ閉會を見たのであつた。

#### 五、市内所見

一、何處へ行つても行列  
議會の傍聴、日用品配給の商店  
天金、竹葉、更科等著名な飲食店  
同じく各劇場等々、何れも其門前  
は、縦々長蛇の陣に議會の如  
きは、午後一時の開會であるのに  
早朝から殺到するといふ状態であ  
先づ餘程の長いものか、閑人  
もなければ、傍聴は勿論、買物も  
食事も、觀劇等も、一寸覺束ない  
といふ有様である。

二、男女學生及職工の奉仕隊  
或日、日本橋、京橋の本通りを  
電車で通つた時に、帯、熊手、春  
春棒等々を、手にし、肩にし(夫  
々の制服姿、甲斐々々しく)約十  
余丁にわたり、正々堂々、行進す  
る光景を見た時は、かくてこそと  
大に意を強うしたものであつた。

三、飯 米  
寧ろ前に於て、我々は「うまい  
ものは東京で」といふことであつ  
たが、今日に於ては、旅館は勿論  
市内すべからず、統制された所謂ス  
フ米であつて、天ぷらも、すしも  
即ちそれで居るので、我等の胃  
の腑も、なかく以て承知し

#### 拜 復

在滿洲 木村守江

先日は内郷村報又本日は誠に難  
力強き御活躍を御敬慕され誠に難  
有拜見仕り候御聲望如き指導者あ  
ればこそ統後の強化もあり得皇軍  
將兵も安心して力一パイ戦線に働  
き得るものと幸へ感謝の至りに存  
じ候  
十一月十三日

てくれないのである。こゝに於て  
純米、純麥の田舎なごの感を  
深うさせられたのである。東京在  
住の同胞には、眞に同情に堪へぬ  
次第ではある。

四、服装と化粧  
市内を行きかふ、男女を見渡す  
に、男の服装は、めつきり國民服  
が殖えてゐる、時代の然らむこと  
である、女の化粧も、大  
體地味で、目立たなくなつたこと  
は、喜ばしいことではあるが、往  
々見上げる婦人中には、時節柄、  
「おしろい」を遠慮することには先  
づよろしいが、之に代るに「おあ  
かい」といふことになり、人でも

食つたかと思はれる様に、悪い  
口紅、まつた頬紅をなすりづけ、  
大佛様のやうに、前髪をさまんく  
の形に巻き上げ、恰も露の懸崖の  
やうに、後髪をながした風態は、  
まことに目ざはり、かうした化  
粧や、細工には、相當の時間を要  
することであらう。其家庭に於け  
る居間台所は勿論、挿入、戸棚  
の中等が如何に整理され、掃除さ  
れてあるかと思ふ時に、やれ、  
ソツトさざるを得ない。

六、結 語  
こゝまで書いて、紙面は既に盡  
きた。以上一週間、滯京の期間に  
於ける、其一端の所見感想によつ  
て、内外の世相を按ずるに、考へ  
させられる事、憂へさせられるこ  
と、之が對策等々、油然、念頭を  
去來し、停止するところなしであ  
る。  
前途迷遠！老聃！自暮れて道遠  
し!!されど、我「生」のあらん限  
りは、筆に、舌に、奉公献替の至  
誠を致さんかなの感を、いと、深  
うしたことであつた。

### 道場生活の母子寮

石城郡方面委員 聯合會副會長

田 口 淳 三

縣下方面委員指導者養成講習會  
は、去る八月廿二日、二日間、縣教育  
會館で開催され、今回更に、十一  
月十六日十七日の二日、縣青年會  
館で開催せられたのであつた。予  
は選ばれて、此前後二回の講習會  
に出席するの光榮に浴したのであ  
つた。

先づ後の青年會館に於ける、道  
場生活の一端を、紹介することに  
する。食事の前後には、正座、御  
靈鎮め、次に

「君と親との御恩味へ  
さいふ、食料の御恩味を行ひ、  
一同一戴きます」といふて、これ  
をいひ、終には  
答をおく時に思へよ報恩の  
道に怠りありやせぬか  
「御魂走様」を齊唱し、各自が其  
食器を片附けるのであつた。  
予は生來、夢飯がきつて、之  
を口にしたことはないものであ  
るが、食膳にあるものは、悉く之

させられたのである。況んや、數  
日の修練をつんだとすれば、其効  
果たるや、蓋し大なるものがあつ  
たことであつたであらう。深く  
考へさせられた。世の教職に在る  
もの、又は指導者の位置に立つも  
のを問はず、道場に於ける、この  
修練こそは、眞に自己を完成する  
上に、人間をつくる上に、最良の  
機關であり、唯一の施設であると  
思はれる。

を食へよ、さいふ規定であるので  
學生の勇を鼓して、之を平らげた  
のである。  
六十年来、始めてのことであつ  
て「行」さか、「非常時」さかい  
ふことを、しかも、味ひ得た感に  
うたれたのであつた。  
かくて予は、其携帶品を、指定  
された室に置き、便所に行つて見  
ると、其備付の草履は、すべて向  
ふむきに、キチンと揃へられてあ  
つた。ハ、ア正にこれは道場だわ  
い、ピンと頭にきたのである。  
便所の壁、廊下、室内の壁等々、  
何處を見ても、樂器一だにない。  
夜になり、座談會がすすんで、就  
寝しやうと、夜長を出さなく、押  
入をあけて見ると、之亦整然たる  
ものであつたには、再び流石は  
感嘆させられたのであつた。

從來、こゝに出入し、又は宿泊  
した青年や、講習員等は、幾千人  
もあつたことであらう。予の如く  
一泊に於ては、かくの如く感嘆

本紙贊助金寄贈芳名  
金五圓 滿洲 松川富保  
金壹圓 内郷 某氏

#### 教育制度改革概論

服部宇之吉 大内民惠著  
矢野恒太郎  
(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

#### 内郷村常會

#### 食料普遍案可決

行き詰る現代の教育制度を解體し  
て、學理と實際と、歴史と實驗とを  
ら新に大内民九主筆を提唱す。天下  
知名の士の賛同枚舉に堪はず。さ  
れど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威  
前京大總長小西直博士  
書を寄せて曰く、多年の御教壇下實地  
御執練ニ基キは學國、大精神ヲ拜  
味仕リ不思感激ニ打テ中候云々。

發行所 日本評論社  
東京京橋三丁目

取次所 内郷村報社

三、食料普遍案  
島田常會理事、各種食料  
の配給が、公平に均霑しな  
い實情を、熱烈に説明あり  
大内委員之賛同、其方法

湖北(七)名譽の戦死を遂  
げた、曹長青木富夫君嚴父  
清次郎氏は、其特別賜金中  
より、金貳拾圓を忠靈塔建  
設費中に寄附した。

本村に於ては、各部落會長  
に於て之を取らざるが、十二  
月五日迄に村役場に提出す  
ることとなつた。其總金額  
は七拾貳圓參拾四錢に達す

きは、午後一時の開會であるのに  
早朝から殺到するといふ状態では、  
先づ餘程の長いものか、閑人でも  
なければ、傍聴は勿論、買物も  
食事も、親類等も、一寸受束ない  
さいふ有様である。

### 教育制度改革概論

(四六版二一頁定價五十錢郵税六錢)

服部宇之吉 大内民惠著  
矢野恒太

行き詰る現代の教育制度を解離し  
て、學理と實際と、歴史と實踐と、  
ら新に大内民九主筆を提唱す。天下  
知名の士の賛同枚舉に違あらず。さ  
れど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威  
前京大總長小西重直博士  
書を寄せて曰く、多年、御議論下實地  
御試練ニ基ク眞學愛國ノ大精神ヲ拜  
味任リ不思議ニ行々レ中笑云々。

發行所 日本評論社  
東京京橋三丁目  
取次所 内郷村報社

體地味で、目立たなくなつたこと  
は、喜ばしいことではあるが、往  
々見上げる婦人中には、時節柄、  
「おしろい」を遠慮するものは先  
づよろしいが、之に代る「おあ  
かい」といふこと、り、人でも

道に恵りありやせぬか  
「御馳走様」を齊唱し、各自が英  
食器を片附けるのであつた。  
予は生來、夢飯がきらびで、之  
を口にしたいはなかつたのであ  
るが、食膳にあるものは、悉く之

ものであつたには、再び流石は  
感嘆させられたのであつた。  
從來、こゝに出入し、又は宿泊  
した青年や、講習員や、幾千人  
もあつたことであらう。予の如く  
一泊に於ては、かくの如く感嘆

本紙賛助金寄贈芳名  
金五圓 滿洲 松川富保  
金壹圓 内郷 某 氏

## 内郷村常會

### 食料普遍案可決

村常會委員、部落會長、  
聯合協力會議は、二十四日  
午後二時から、村議事堂に  
開會、殆んど全員定刻に參  
集、國民儀禮に始まり先金  
澤助役村長(出張)に代つ  
て、二十二日郡常會に於て  
縣當局から指示された諸項  
に就いて、朗讀並に説明さ  
れるところであつた。其大要  
を、抄記報道し、且これ  
れに私見を加へて、一般  
村民各位の協力實現を希望  
することとした。

本縣本年度貯蓄目標一億  
五千萬圓に對し、今年上半  
期(四月九月)の實績は  
三千七百八十八萬圓(私  
人の有價證券投資及各種保  
險除外)即ち二五%で、前  
年度同期に於ける三四%に  
比して、大に減つたわけだ  
である。いふ迄もなく、事變  
國債及債券消化といふこと  
は、重要な問題であつて、  
先きに本村に割り當てられ  
た、各種債券を、各位の盡  
力により、見事に消化し得  
たことは、本當に力強い事  
であつたのである。尙今後  
も繰返さるゝこと、思はれ  
るから、一段と協力を仰ぎ  
たいものである。

無言の凱旋  
高坂出身故陸軍少尉渡邊  
好君の遺骨は、十一月十三  
日歸郷に多數の村民に迎へ  
られて、無言の凱旋をした

磐炭大運動會  
磐炭健康保險主催で、十  
一月三日金坂グラウンドに  
於て、大運動會開催。勇躍  
して各種競技に氣おふ選手  
天にとゞろく花火、地にわ  
く歡聲、變裝假裝の應援隊  
觀覽者無慮一萬を突破する  
といふ盛況であつた。

### 無言の凱旋

### 兩氏の榮譽

### 磐炭大運動會

一、神宮大麻奉齋の件  
「神宮大麻」とは、申す迄  
もなく、伊勢大神宮の「お  
はらひ」である。この大麻  
を、一年一回新年に、當局  
からうけて、家庭祭祀の本  
とするは、神國々民の  
當然の本務である。然るに  
之をうけないもの、少く  
ないことは、まことに相濟  
まぬ次第である。今や空前  
の非常時、今度からは是非  
共全村一戸も漏れなく、之  
を拜受奉齋、神明に誓つて  
國策完遂に、精進すること  
にいたしたいものである。

戰線へ慰問狀  
銚後奉公強化運動實施期  
間中、全村各部部落會總動員  
で、其部落出身將兵に發送  
した慰問狀總數は、實に二  
千五百二通に達し、内封書  
は二千三百十九通、端書は  
百八十三通である。

宮崎縣駐在上遠野巡查は  
三十年精勤の功勞によつて  
勳八等に叙せられ、内町黒  
田校長は、高等官七等待遇  
に昇せられた。眞に慶賀の  
至りである。

磐炭健康保險主催で、十  
一月三日金坂グラウンドに  
於て、大運動會開催。勇躍  
して各種競技に氣おふ選手  
天にとゞろく花火、地にわ  
く歡聲、變裝假裝の應援隊  
觀覽者無慮一萬を突破する  
といふ盛況であつた。

二、貯蓄實踐強調運動  
「戦ひつゝ建設」しなければ  
ならぬのが、皇國興廢の  
關頭に立つ、我國刻下の現

特志寄附  
▽高坂矢部敏雄氏は、十一  
月三日母堂逝去したので、左記  
其葬儀費を節約して、左記  
五團體に對し、各金貳拾圓  
宛を寄附した。

方面委員例會  
十一月七日午前十時より  
村議事堂に開催、諸般の打  
合せをなし、金澤助役より  
取扱事項に關して種々の注  
意あつて、正午閉會した。

磐炭強調週間  
磐炭に於ては、十一月七  
日より一週間の實施して  
好成绩を擧げた。殊に其第  
一日には、全山職員午前五  
時、各坑に分散集合、宣誓  
式を舉行、鑛業報國強調精  
神を大に宣揚し、又第七日  
には、職員社宅夫人が殆ん  
ど全部が、各坑々口に分散  
出勤し、入坑の従業員を犒  
ひお茶の接待をした。

三、食料普遍案  
島田常會理事、各種食料  
の配給が、公平に均霑しな  
い實情を、熱烈に説明あり  
大内委員之、賛同、其方法  
として、實情を調査し、當  
局への建議案を作製、郡協  
力會議に之を提案、其の實  
現を期すること、満場一  
致之を可決、薄暮閉會した  
其他之を略す。

宮城 整備費賦納  
紀元二千六百年記念、宮  
城外苑整備事業中、新櫻田  
口水呑場施設費約七萬圓を  
全國町村一戸に借金壹錢  
を賦納することになり

磐炭強調週間  
磐炭に於ては、十一月七  
日より一週間の實施して  
好成绩を擧げた。殊に其第  
一日には、全山職員午前五  
時、各坑に分散集合、宣誓  
式を舉行、鑛業報國強調精  
神を大に宣揚し、又第七日  
には、職員社宅夫人が殆ん  
ど全部が、各坑々口に分散  
出勤し、入坑の従業員を犒  
ひお茶の接待をした。

磐炭強調週間  
磐炭に於ては、十一月七  
日より一週間の實施して  
好成绩を擧げた。殊に其第  
一日には、全山職員午前五  
時、各坑に分散集合、宣誓  
式を舉行、鑛業報國強調精  
神を大に宣揚し、又第七日  
には、職員社宅夫人が殆ん  
ど全部が、各坑々口に分散  
出勤し、入坑の従業員を犒  
ひお茶の接待をした。

# 皇運扶翼に 水盃の門出!

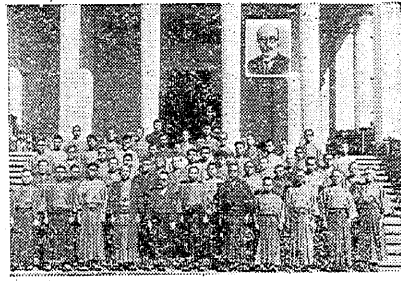
## 大倉山鍊成修養會

### 大内民恵

一、緒言  
警城炭礦では、九月から十一月にかけて、第一線の産業戦士隊長二百余名を、四班にわけ、東洋大學生大倉邦彦先生の宰する、大倉

内外將兵諸君より  
本社では、事變發生以來本村出身、内外在勤將兵諸君に對し、本社より直接か或は其家庭、或は特志家、或は婦人會、又先月からは村内各部落會を通じて、毎月本紙を贈呈し、而して將兵諸君からは、近狀を報告して下さると同時に、懐しい故郷の状況がわかつてうれしいといふ感謝状を、多数いたゞいて居るのである左に最近いたゞいた、諸君の氏名を掲載して、衷心から敬意を表する。

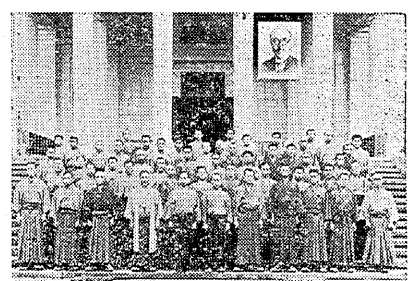
精神文化研究所に於て、三日間つゞ、鍊成修養會の講習を受けた。予は、大正十四年から、數十年にわたり、先生より「感想」を稱する小冊子の寄贈を受け、其所謂先生の感想に、將た其文章に、傾



(氏郎三善崎濱者率引) 班一第

倒するところ多大、折あらば親しく醫政に接し、其高教を仰ぎたいものと思つて居つたので、好機逸すべからず、警城炭礦局に特に乞ふて、老軀を提げて、立教大學

生濱崎廣太郎君と共に、其最後班に番外として加はり、北山準之助氏に率ゐられ、十月三十日より十一月二日まで三日間、五十人の若人群に加はり、其全課程を、完全にうけさせていたゞいたのである其詳細は追つて紹介することにして、こゝには、僅かに其アウトラインを、所感の一端を、述べることにした。

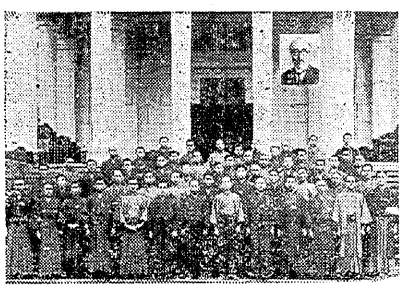


(氏彦義島小者率引) 班二第

棟の建物から成つて居る。其使命とするところは、  
一、日本文化の研究發揚  
二、臣民道に徹する人物の養成  
三、國體信念の強化徹底  
であつて、其使命達成に基く、いはば附帶事業として、其希望者ある折々に、鍊成修養會が、開講せらるゝのである。

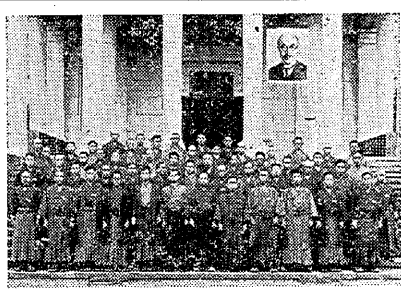
三、修養會の一般行事  
十月三十日午後二時、一行と共に本館の前に整列して、玄關上「鏡」の紋章を仰いた予は、過去一切、心身清掃、赤襟々のおのれに、この明鏡にうつし、以て修練に努めんがなむ、心中密かに期するところであつた。  
其一日の行事は、左の通りであつて

一、起床 五時  
二、神拜 五時—五時三十分  
三、宮城遙拜 先祖兩親に各個拜 五時三十分—六時  
四、禮拝 六時—七時  
五、朝飯 七時—七時三十分  
六、所長講話 九時—十時  
七、定座 十時—十時五十分  
八、作業訓練 十一時—十一時四十分  
九、食 十二時—十二時三十分  
一〇、作業訓練 一時—三十分  
一、休憩 一時三十分—三時



(氏郎四原上者率引) 班三第

又美濃部博士と、故上杉博士とが、憲法論で相對立論争した、當年を説かれた時には、予は其頃、故上杉博士の幕下に馳せ参じ、一夜を語りあかして、終に小石川の先生邸に、宿めていたゞいた昔を



(氏助之準山北者率引) 班四第

最後の訓辭あり、吉田松陰先生の辭世に因りて、身はたこへ警城の山にうちぬともさ、めおかまし大和魂の一首を以て結ばれ、我北山氏の代表答辭あり、其一節に  
私達は、先生方の熱き力さの御指導により、すつかり根底から焼直していただき、全く生れ變つて、本當の日本精神を把握し

四、其收獲  
神前、會式に於て、杉坂先生  
追憶し、感概無量、故博士をして今日あらじめば、轉た恨恨の情にうたれたことであつた。  
五、結語  
在山三日、大倉先生の事業を拜見し、予がそれとは、着手の前後機構の大小等に就いては、勿論小異はあつたが、そのすべて悉くは大同、相一致するところあつた。こゝを發見し、其奇遇中の奇遇には實に驚嘆に堪へざる感にうたれたのである。それらに就いては、他日紙面に改めて語ることにする。  
終りに、大倉先生を始め、杉坂岡崎兩師並に關係各位に對して、深甚の敬意を表して擲筆する。

## 内郷村報の 六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。  
二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を圖り、統制和緩發揚の實現を期す。  
三、本村共済事業の徹底を期す。

四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。  
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。  
六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説に子孫に對する遺言を兼ねるものなり

其「海外同胞中央會」が主催となつて、外務省、拓務省、情報局、大政翼賛會、東京市等の後援の下に、同十八日午後一時から日比谷公會堂に、開催されたのが海外同胞會の大成功であつた。

# 内郷村報

天法  
人順  
則

會派が出現して來たのである。

本紙發行は、昭和六年十一月廿五日

本紙定價 一冊五錢 一年五圓 半年三圓 半年三圓 半年三圓